



外国人観光客に人気の秘訣に近づく

～人気の河口湖をバスタ新宿発の「ばす旅」で追跡調査～

帝京大学 経済学部 観光経営学科 大下ゼミ

外国人観光客に人気の河口湖。「バスタ新宿」の開業一周年を迎え、既存インフラ施設としての「バスタ新宿」のさらなる有効活用の展開もテーマに、ゼミ担当の大下先生・国土交通省の担当者の方々と一緒に“大人の現地踏査”に行ってきました。

■やはり人気のスポット、朝から増便。いざ河口湖へ

バスタ新宿の上期(2016年4月～9月)の利用者数の第一位は箱根(33.5万人/6ヶ月)、第二位は大阪(32.5万人)、そして河口湖が第三位(32.1万人)です。今回の調査は、外国人観光客と女子旅をターゲットとする「ばす旅」をテーマとし、往復のバスと1泊のホテルの予約以外はすべてフリープラン。河口湖バスターミナルでの観光案内や2次交通への乗り継ぎの状況等を調査することにしました。

私たちが乗車した8:45発の河口湖行は、増便が出るほどの人気。40名程の座席がほぼ満席状態で、20～30代の若い人が多く外国人観光客も8名ほどいました。途中の富士急ハイランドで降りる観光客が多いのではないかと考えていましたが17名の下車、富士山駅で3名、終点河口湖駅で17名という結果。2月の後半であったことから卒業旅行での来訪のグループも見られましたが、外国人観光客は全員が河口湖駅下車であり、外国人観光客の人気スポットとなっていることが確認できました。駅前に降り立つと驚きの光景が…、外国人観光客が周遊バスに長蛇の列を作っていました。

■充実したゲートウェイ機能と、もてなしシステムに驚き!!

バスターミナルの施設やお土産コーナーは、予想以上の外国人観光客で溢れており賑わっていました。多くの外国人観光客は、パンフレットを眺めて、目的とする観光スポットを探していました。バスターミナルに隣接している観光案内所等ではコンシェルジュも待機しており、日本人でも首を傾げてしまうような、複雑な路線バスの乗り方や切符の購入の仕方にも英語で案内をされていました。

また、外貨自動両替機やコンシェルジュデスクが用意されている等、国際観光地としての環境が整っており、ゲートウェイ機能の充実は予想以上。当然、富士山をバックに自撮する光景が随所で見られました。毎年2月は観光客の低迷月らしいですが、今年は外国人、特に東南アジアからの来客が多く、外国人観光客は全体の6割とのことでした。



河口湖バスターミナル内のコンシェルジュデスクでは英語で案内をしていました



1号車～3号車まで、同時刻にバスタ新宿を出発～さすが人気路線!!



河口湖周遊バスには長蛇の列が。中国はもとより、東南アジアからの外国人観光客が多い!!



外貨自動両替機がコンシェルジュデスク脇に設置。外国人観光客の受入環境が充実している

■新しい旅のスタイル“ばす旅”の聖地・バスタ新宿のこれからの展開に期待

河口湖のバスターミナルのように、外国人観光客の受入環境や路線バスへの案内が行き届いていると、ふらっと訪れた女子旅や外国人観光客にとっては安心!!そこに観光情報の発信・パンフレット&マップや地域ならではの体験プログラムが創出できれば、益々人気の観光地となる気がしました。

新宿に買い物にいったついでに立ち寄ったバスタ新宿。「そうだ“ばす旅”でちょっと郊外に遠出してみよう」という気になり、コンビニで“ばす弁”を買って、ぷらっとミニ旅行といった新しい観光スタイルもブーム化するかもしれません。“ばす旅”の聖地としてのバスタ新宿、2年目の取組みに注目したいです!!

(柏木美紗子・武田彩香・足立健一)



ピクニック気分で“ばす旅”をイメージで表現してみました…柏木